

授業科目名	担当教員		単位数	
<p style="text-align: center;"><b>平和学</b> (通年) (広島・長崎講座)</p>	カワクボ フミノリ <b>川久保 文紀</b>		4	
<b>授業目的</b>	<p>20世紀という時代は「戦争と革命の世紀」でしたが、平和学は、社会科学の他の隣接諸領域との学際的協力を試みながら、「戦争の諸原因と平和の諸条件」を考察していく学問的特質をもっています。冷戦崩壊後、グローバリゼーションが急速に進展する現代の国際社会においては、地球温暖化の急速な進行、貧困と経済格差、内戦や地域紛争の勃発などの「地球的問題群」が山積しており、こうした今日の課題にも対応できるような新しい平和学の在り方も模索されています。</p> <p>平和学を学ぶためには、現実の国際社会や世界構造の「隠された」現状を批判的に考察していくという基本的姿勢が何よりも必要です。本講義では、受講生みずからが、20世紀の時代経験を踏まえ、暴力と平和をめぐる諸問題について考える「きっかけ」となるような講義展開を心がけたいと思います。また、視聴覚教材やレスポンスシートなども取り入れることによって、双方向的な講義になるように努めていきたいと思っています。なお、本講義は、2015年度に公益財団法人広島平和文化センターより「広島・長崎講座」に認定されました。</p>			
	<b>授業計画</b>	<b>前 期</b>		<b>後 期</b>
第1回		20世紀の時代経験—戦争の世紀	第1回	新しい平和学
第2回		20世紀という時代①十五年戦争	第2回	「人間の安全保障」について考える①
第3回		20世紀という時代②第一次・第二次大戦	第3回	「人間の安全保障」について考える②
第4回		ニュルンベルグ裁判と東京裁判—戦争犯罪と「戦後和解」	第4回	国連と平和
第5回		20世紀という時代③植民地独立と冷戦	第5回	貧困と飢餓から考える：アフリカの世紀
第6回		20世紀という時代④ベトナム・朝鮮戦争	第6回	難民の世紀：UNHCRの活動を通して
第7回		平和学とはどのような学問か①歴史と展開	第7回	資源をめぐる戦争①資源ナショナリズム
第8回		平和学とはどのような学問か②「構造的暴力」とは何か	第8回	資源をめぐる戦争②水をめぐる戦争
第9回		ヒロシマ・ナガサキから考える平和	第9回	国際正義と平和構築—正義は国境を越えるか
第10回		オキナワと米軍基地から考える平和	第10回	子ども兵と戦争
第11回		「核密約」とは何か	第11回	地球温暖化の平和学①
第12回		「核なき世界」の理想と現実	第12回	地球温暖化の平和学②
第13回		湯川秀樹博士からのメッセージ	第13回	原子力エネルギーと平和①福島原発事故から考える
第14回		9・11テロと「新しい戦争」—戦争の民間化を中心に	第14回	原子力エネルギーと平和②福島・南相馬と飯館の現状
第15回	9・11テロ以後の監視社会	第15回	21世紀の地球市民社会	
<b>成績評価方法・基準</b>	出席：50%                      小テスト： % レポート： %                      定期試験：50% その他：		<b>テキスト・参考書</b> 担当者が作成するプリントを使用する。 適宜以下を使用する。 滝田・大芝・都留編『国際関係学』有信堂、2015年。	
<b>準備学習等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代政治や国際政治の動向について、日頃からニュース・新聞等で把握しておくことが望ましい。</li> <li>授業中のマナーに気を付けること。携帯（とくにメール）、私語は、とくに厳禁。マナーが悪い場合は、減点の対象になることはいまでもない。遅刻についても同様である。</li> <li>体調が悪い場合などを除き、教室の途中入退室は認めない。</li> <li>「内職」を見つけた場合、厳しく対処します。</li> <li>一人おきに席に座ること。</li> </ul>			